

23 春闘のたたかいに向けた木更津支部見解

私達は、新型コロナウイルス感染症の猛威の中で、組織再編に伴う統括センター化や、ワンマン運転などの各種施策に向き合い、安全・安定輸送に努めてきた。しかし、夏季手当・年末手当のたたかいで本体・JESS・バス関東の仲間を示された回答は過去最低の数字であり到底納得できるものではない。黒字化に向けて職場で奮闘してきた組合員の努力に向き合わないばかりか、私達の生活を無視した会社姿勢として捉えている。職場では、ひっ迫する要員問題やワンマン運転などの施策による業務量の増加、キャリアプランを無視した異動といった問題が発生しており、そうした中で、多くの苦労を重ねながら業務を行い、JR東日本の安全を守っている。職場の努力があってこそその黒字化であり、会社は今一度社員に向き合うべきだ。組合員からは、「年末手当 2.4 ヶ月では生活できない」「業務量が増加しているのに、過去最低の回答では納得できない」「物価高で生活が厳しく、黒字なのに手当を上げないのはおかしい」など、怒りの声が支部に寄せられている。

会社は 21 春闘で「昇給係数 2・ベアゼロ」と定期昇給のカットを行い、22 春闘で「昇給係数 4・ベアゼロ」の回答を受け、夏季手当、年末手当のたたかいを通じ、支部として「生活実感」「労働実感」に対する組合員の意見を集約し、本部・地本・分会と連携して要求実現に向けてたたかいをつくり出してきた。しかし、組合員の苦しい現実とは裏腹に、社友会によって「年末手当が、夏季手当の 2.3 ヶ月より 0.1 ヶ月増えて良かった」「思ったよりもらえて良かった」といった社内世論が形成された。

しかし、そうした声が果たして本当なのか？未加入者からの声として、

- ・「年末手当が夏季手当より 0.1 ヶ月増えたから良かったなんて思いません」
- ・「コロナ禍の中でも今まで以上の仕事をしてきたのに、毎回この程度のボーナスでは生活水準が低下する一方です。」
- ・「2.4 ヶ月という数字に納得感はありません」

これが未加入者の声である。会社の言う「一定数以上の声」とは会社にとって都合の良い一部の社友会の声であるのは間違いない。社内世論に立ち向かうために、生活実感・労働実感に踏まえた私達の要求を堂々と掲げていこう！そして、要求実現に向けて組合員と未加入者と対話を積み重ね、職場で働く社員の真実の声を要求として打ち出していく。

経団連は 23 春闘に向け、ベースアップを中心とした積極的な賃上げを呼び掛けているが、深澤社長は賃上げに慎重と答えるなど、出さないといわんばかりの姿勢を打ち出している。JR 東日本は、第 3 四半期決算が増収増益で 3 期ぶりの黒字転換となったように、会社の支払い能力は十分にある。相次ぐ光熱費や生活必需品の値上げなどによって生活はより厳しいものとなり、賃上げがなければ組合員の生活はもう限界だ。このような経営姿勢や社友会の本質に立ち向かわなければ、私達の要求とかけ離れた回答が示されかねず、要求実現のためには JR 東労組への組織拡大を実現するしかない！23 春闘のベア要求 10,000 円の満額獲得に向け、全組合員で組織強化・拡大を押しすすめ、23 春闘勝利に向けて職場からたたかいをつくり出そう！

2023年03月01日
東日本旅客鉄道労働組合
千葉地方本部木更津支部